生駒市市民自治検討委員会設立準備会（第６回）議事要旨

日時：平成 16 年３月 16 日（火）10:00～12：00
場所：市役所 402 会議室
出席委員（敬称略）：相川、中川、野口、上埜、金谷、鶴田、森

１．中間報告（案）について

○各委員から中間報告（案）に対する修正意見等を頂き、報告書のとりまとめを行った。

《主な意見等》

○中川委員：中間報告を公に明らかにすることについて、これでよいかの決断をしていただく。修正・削除・加筆があれば順次オーソライズしたい。

○相川委員：中間報告の５ページ④の一番下の行で「可能性が」ではなく「可能性も」に、７ページ③の下から 2 つ目の項目「市民にとって」ではなく「行政にとって」としてほしい。

○鶴田委員：中間報告について、９ページ②の 3 つ目であるが、この文章では市民が一同に会してコミュニケーションするようなニュアンスがある。私の言いたかったのはそうではなく、いろいろな場面でだれもが意思を発信できる機会を、ということであったのだが。

○野口委員：「自由に」という意味で理解できる。あえて言うなら「さまざまな機会を通して」と入れるのがいいかもしれないが、このままでいいのではないか。

○森委員：中間報告については、６ページ①の下から 2 つ目の項目で、「市内には各分野で」とあるのを「市内には民間の各分野で」と変えていただきたい。

○野口委員：中間報告の５ページ③の 2 番目の項目の「温度差」という表現が気になる。「多様である」のほうがいいのではないか。

○野口委員：「必要」と「必要である」の 2 通りの表現がなされているが、なぜ区別しているのか。統一性があったほうがよいのでは。表現上の問題ではあるが。

○森委員：中間報告の５ページの一番上の項目で「聞くことも」を「聞くことが」に変えてほしい。

２．今後の進め方（シンポジウム、タウンミーティングについて）

○来年度以降に実施するシンポジウム、タウンミーティングの進め方について、質疑、意見交換を行った。

《主な意見等》

○事務局：平成 16 年度はシンポジウムを中心にいきたい。そして市民の啓発を兼ねて意識を高揚し、タウンミーティングへ、と入っていきたい。まず、全体的なシンポジウムであるが、どのような実施主体でするのか、つまり行政とどういう組み合わせがよいのかということと、運営方法はどうするのか。できればここで方針を立てて、次の第 7 回準備会で案として提出したい。

○中川委員：スケジュールとしてはどうなっているのか。

○事務局：まず 6 月ごろに中央公民館でシンポジウムと考えている。主催を生駒市だけでするのか、他に活動している団体もあると聞くし、実施主体と運営方式について自由にご意見を頂きたい。

○金谷委員：私たちの団体（NPO 法人テイクオフ生駒 21）で本年度の事業活動の１つとして、6 月にシンポジウムを予定している。そこに一緒に乗っていければよいと思うが。

○森委員：シンポジウムには市長または助役がベースとなる話をする必要があるのでは。

○金谷委員：この前の議会でも市長がタウンミーティングについて話されていた。できれば市長に来て頂くとシンポジウムがもっと活気付くと思う。

○中川委員：市長に基調提案を 20～30 分話してもらう、あるいはパネリストとして参加してほしいということか。

○森委員：セレモニー的な話や講演は必要ない。

○事務局：シンポジウムの考えとして、市民の意識啓発につなげていけたらいいと思っている。まずは広く薄く浸透させていきたい。今のご意見はもう少し先の段階でいいと思う。

○中川委員：行政側は社会啓発、森委員の意見は当事者啓発のことを言っている。今の 2 つの意見は矛盾していない。

○野口委員：話を元にもどして、まずどこが主催するのか、枠を決めるべき。

○上埜委員：自治会連合会が共催するのは問題なし。

○鶴田委員：市民の意識改革をめざすなら、高山の問題などを無視できないのでは。

○野口委員：シンポジウムを開催する意義のひとつに、まず市民に存在を知ってもらうことがある。鶴田委員の話はその次のステップとして具体的な話になると思う。

○森委員：まちづくりについて市民の関心は非常に高いので、行政のスタンスをトップの方が示す必要があるのでは。

○鶴田委員：市民と行政が本気で協力してやっていこうという姿勢が伝われば・・・

○野口委員：それならば市民グループの共催という形で持っていくのがよい。もしくはこの準備会やテイクオフが中核となる。この 2 つの方法があると思う。

○中川委員：主催が準備会・自治会連合会・ＮＰＯ、後援が生駒市・生駒市教育委員会にしては。

○相川委員：ここは準備会であるが、来たるべき検討委員会の前にシンポジウムを行うということか。

○事務局：準備会での活動内容を市民にＰＲし、シンポジウムを開き、それをうまく活用して検討委員会を設置したい。そこからタウンミーティングへと移っていく。

○中川委員：実際には市がお金を出して、支援しているのは分かることであるが、企画・内容はこの準備会が責任をもってするのがよい。

○鶴田委員：学校集会の経験から、公の立場の人は言葉に制約があり、「市」対「市民」では難しい部分があると思う。

○中川委員：きちっと意見が言えて政策的にものが考えられる、これは全市民に求めるのは無理。数%でいいからそういう市民が集ってほしい。

○鶴田委員：きちんとした議論が最終的には同じ土俵で行われるべきだと思う。

○中川委員：住民投票ができるような地域社会をつくることが必要。条例はあとの話。シンボル的に高山の問題をぶつけても生駒は良くならない。

○鶴田委員：まちづくりをあまり重要に感じていない人の意見で、まちが動いていかないか心配である。

○中川委員：政治学の世界ではアパシー（無関心・無気力層）の存在は当たり前の話。アパシーを味

方につけられるかは、そのグループのアクティビティの高さである。ただ、声が大きいというだけでなくフットワークが軽いという意味もある。

○野口委員：妥当な判断ができるグループをつくることが目的である。行政主導型ではなかなか人が集まらない。

○中川委員：主催は準備会及び自治会連合会、ＮＰＯでいく。市内のＮＰＯをまとめる組織はあるのか。

○金谷委員：ＮＰＯのネットワークについて一度集まったが、まだうまく意思の疎通ができない。

○中川委員：ＮＰＯについては６月までにお願いしたい。スタイルとすれば、市長に基調提案者あるいはパネリストの一員として参加することをお願いしたい。コーディネーターを誰にするかという問題もあるが、このメンバーから２～3 人はパネリストとして出てもらう。残りのパネリストには、できれば先進的に頑張っている、実証的にやっている、住民自治システムを作動させている、あるいは行政を変えさせたという自治体の人、例えば名張市・神戸市・京都府美山町など。必死にやっているところの事例を報告してもらってはどうか。パネリストは 4 人が限界と考える。

○事務局：次回に基本的な要綱を提案する。

○野口委員：市長の出て来られる日を押さえて、日程を組むことがまず先決。

○中川委員：タウンミーティングは検討委員会を立ち上げてからでよいと思う。遅いというなら１、２回はこの準備会で行ってもよい。高山工区の話は最後の成熟した段階でやったほうがよいのでは。

○金谷委員：シンポジウムはテーマが一番大事だと思う。何のためにやっているのか、市民には目的が見えにくい。目標をきちんと設定すれば生駒市民は参加すると思う。

○事務局：政策的なことについて、議会が市民参加の中心になる機関である。高山工区をテーマにすれば関心のある人が大勢集まるとは思うが、しかしそのことに対して適切な情報が出ているかということについて生駒市だけでは判断できない部分がある。テーマを絞ることはなかなか難しい。

○金谷委員：別に高山のことをテーマに、と言っているのではない。シンポジウムによって、構想から検討委員会へという流れが市民に見えるようなものを出す必要がある。

○事務局：ホームページ・広報だけでは情報発信は不十分と考えている。やはりシンポジウムが必要。なぜ検討委員会をつくるのか、この準備会は検討委員会をつくるための前段階であるということをもっと市民にＰＲし、市民に分かりやすい条件設定をやってもらいたい。

○森委員：状況がドラマティックに変わっているのであるから、市民の目からみて、少ない費用で効果的なまちづくりをしようじゃないか、そのために市民が参加する方法がある、という話をしたい。市民が行政に代わってできることがあるのだということを結論としてほしい。

○中川委員：はっきりと「生駒は倒産しますよ」、「市民も頑張らないともちませんよ」と言えばよい。どうしたらいいのか。住民も参加した自治再生しかないのだと。市民社会を討論する。住民が自立して生駒市から予算をもらい、校区単位で自分たちのことは自分たちでするというビジネスを起こせばよい。そういう社会をつくるための討論である。

○金谷委員：この前の議会で税収が 18 億円減ったと述べていた。そういうことを市民にＰＲして危機感を高め、市民参加を促す必要がある。

○中川委員：もはや政治も改革しなければならない。当然それに伴って行政も改革に入っていかなければならない。市民社会だけが変わらなくてよいのか。三者は一体であり、地域社会の自己変革が必要となる。地域こそが今主役なんだと話すべきでは。

○野口委員：このあたりについて市長から先行する事例を示しながら発言があるとよい。

○中川委員：埼玉県の志木市を呼んだらパンチ力がある。行政職員を 10 分の 1 にすると言っている。第二市役所もつくっている。よい刺激剤になる。

○野口委員：志木市、名張市といった候補を出してもらって、こちらの方向性をきちっと決め、つめていけばよい。

○中川委員：この線で企画を出してみる。タウンミーティングについては、それが終わった段階で、来てくださった人の中から検討委員会への立候補者も出るだろうし、実行委員会のメンバーになってもよいという人も出るだろうし。タウンミーティングは地元の町内会・自治会が関わっていかないとできない。

○上埜委員：人集めは自治会でできる。ただし、偏ったテーマとなれば抵抗がある。

○中川委員：「21 世紀型の住民自治とは何か」ということをまずテーマにしては。

○野口委員：市長の冒頭の話として、特定地域の特定のテーマにはならないと思う。今、生駒市全体に問われていることは何かという形になると思う。

○鶴田委員：立派な構想ができて、「参考にします」で終わっては困る。議会へ出て具体化するのか。現場がどう変わるのかが大事。

○野口委員：今回の議会で市長がタウンミーティングのことを話されたのは大きな変化である。

○森委員：国からの交付金も減ってきたら、住民が何かやるしかない。

○中川委員：生駒市という自治体を連邦型にしたらよい。小学校区単位の小さい政府をつくり、それが 20～30 集まって連邦にする。その中で自分達ではできない事業などは市役所に頼み、できることは自分達でするという住民制度をつくらねばならない。行政へただ要求したり、悪口ばかり言っている時代は終わっている。

○野口委員：行政の中に競争原理をどのように持ち込むかということ。今まで行政には競争原理が持ち込みにくかった。地域間の競争も含めて競争原理が当たり前になってくるので、これらについての啓発が必要。

○森委員：そういう意味では、生駒市が独自の財源をつくり出せるような取り組みが必要。

○中川委員：生駒は今すごい危機にある。財源的にも厳しく、大きな転換期にある。これは市民にも責任がある。自治会とＮＰＯも競争。平等とは最低限のシビルミニマムだけで、それ以外の平等はなくなる。

○金谷委員：今までの生駒の流れを変えてしまうような動きが必要。「市民が主役」と謳われているがどういうことをするのかが分からない。理解できるようなものを出せたら、シンポジウムもうまくいくと思う。

○中川委員：「市民が経営者となる」ということを出せばよい。地域経営の主役が市民。

３．その他

○各委員の日程調整の結果、次回会議は４月 22 日（木）午前中に決定。

以上